

2015 年度 E.FORUM 教育研究セミナー
「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」&「高等学校における探究の評価」
アンケート結果概要

2015 年 8 月 1 日 (土) に実施した E.FORUM 教育研究セミナー (第 1 部「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」、第 2 部「高等学校における探究の評価」) において、セミナー終了後にアンケートを行いました。受講者の皆様にご記入いただいた回答の概要をご紹介します。

※第 1 部「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」は、京都大学 COCOLO 域との共催です。詳細については、『高校生と大学生の探究成果ポスター発表会報告書』(2015 年 12 月刊行)をご参照ください。

1. 参加人数

8 月 1 日 (土)

第 1 部 130 名 / 第 2 部 140 名

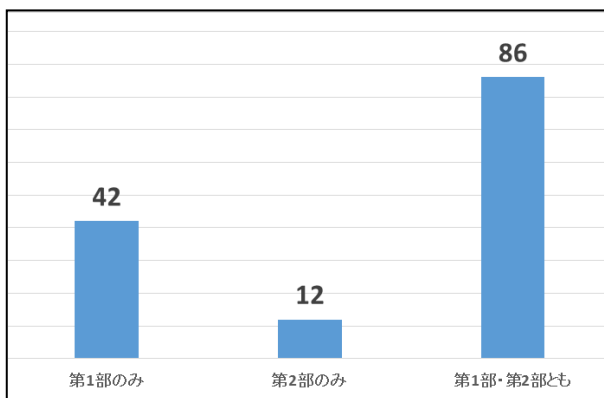
※第 1 部「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」

での発表者人数は下記の通りです。

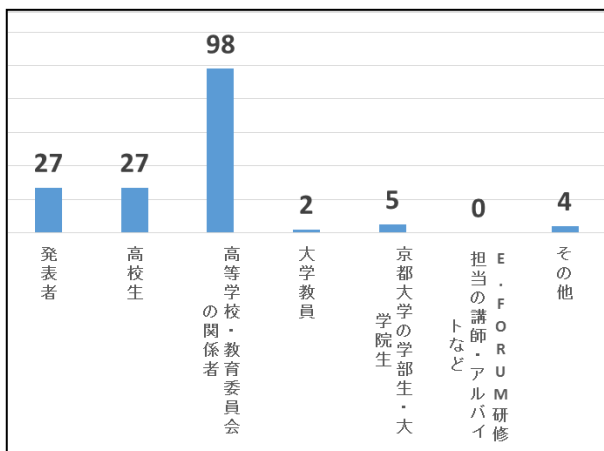
発表者: 高校生 56 名 (30 グループ)

大学生 37 名 (12 グループ)

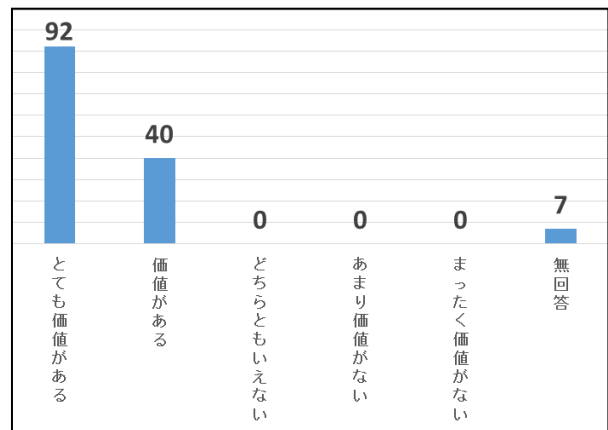
※アンケート回答者数 140 名



2. どのような立場で参加されましたか？
(複数回答あり)



3. 本イベント全体に対する評価



4. ポスター発表に対するコメント

『高校生と大学生の探究成果ポスター発表会報告書』(2015 年 12 月刊行)に収録。

5. COCOLO 域の活動に対するご意見・ご感想 (抜粋)

■ポスター発表について

- ・ たくさんの研究発表があり、いろんなことが詳しくわかれた。
- ・ よい経験をすることができました。
- ・ 貴重な体験とアドバイスをいただけて本当によかったです。
- ・ 興味深い発表が多くて、楽しかったです。
- ・ 様々なジャンルの研究にふれられて良かった。
- ・ 文系と理系が同じ会場で発表し、お互いに聞く機会があったことは良い点だと思います。理系は学会や研究発表会等、外部で発表する機会が多いが、文系では発表する場が少ないので、来年度は文系の生徒にも発表させたいと思います。
- ・ SGH関係の発表をはじめて見る事ができた。ありがたい。
- ・ こうした素晴らしい取り組みは現場としてとてもありがたいです。
- ・ 午前中は、生徒・学生が主役になればよかった。午後は先生のため、先生主役で。発表時間が短いので、もったいない。十分な準備時間がない中でポスター発表をした生徒の声が聞きたい。

- ・ 冊子(発表内容)の中に、生徒が何を求めているかが示されていればよい。成果発表なのか、自分の研究のグレードアップを目指すのか、求めているもの、聴衆に求めているものが、例えば、△○◎などで示すのはどうか。
- ・ とても良い活動でした。高校の数が増えてより大規模になると、より良いかと思います。そうなれば本当のFORUMですね！
- ・ 42番のポスター発表を聴いたが、活動の目的が不明確であり、「ソーシャルサービスの開発」というよりは、「(閉じられた・限定的な)コミュニティづくり」のような印象を受けた。地域や市民にどのように貢献することを目指しているのかを整理した方が良いかもしれない(目的は「京大生にしかできない地域貢献」ですよ?)。
- ・ 今後の学習形態の一つになり、広まっていくとよいと思う。
- ・ 今回のような高校生・大学院生がともにポスターセッションをする機会は来年度以降も続けてほしい。
- ・ 高校と大学との発表交流は初めて経験しましたが、もっと時間があってもよかったと思いました。話が深まって3つしか聞けなかったため、他の発表も聞きたかったです。ポスターもすぐはがされてしまったため、しばらくポスターだけでも拝見できるようにしてほしいです。
- ・ とても面白かったです。こういう機会はなるべく多くあった方がよいように思います。今回はもう少し時間がほしかったです。見たい発表が見きれませんでした。
- ・ 生徒達が生き生きと発表している姿を見て、とても貴重な機会だと思いました。留学生の発表ももっと聞いてみたいと思いました。
- ・ 実際にポスター発表を見ることができたので大変有意義でした。
- ・ すばらしい発表の場でした。本校の生徒にも是非参加をすすめていきたいです。
- ・ あたたかい活動で感動しました。
- ・ 高校生にとって、研究・発表・講評というプロセス全体が、とても刺激的で、豊かな学びとなるものだと思います。こういう場があることは、高校生の探究的な学びを推進していく上で、大変意義があると思います。

■大学と地域・高校との連携について

- ・ 初めて知ったので、あまり詳しく知らないが、地域と関わるのは良いと思う。
- ・ すばらしい理念だと思います。ぜひ継続・発展をお願いいたします。
- ・ ぜひ京都大学でこの活動に参加してみたいなと思いました！
- ・ 大学と高校との共同研究の一つの形として具体的なイメージをもつことができました。
- ・ このような取り組みをぜひ継続し、研究していったと感じました。

- ・ 京都が羨ましいです。良い取り組みです。
- ・ 「地域のリソースから学ぶ」、「地域の力を借りる」、「地域という複合体からポイントを切り取る」ということがすばらしいと思いました。Win-Winの関係ですね。
- ・ 京都という地域や環境がうらやましいと感じた。自分の地域は恵まれておらず、大学生も消極的で残念。
- ・ 大学が現場とともに学び合うことは相互に成果をあげることができる。
- ・ 大学がこのような活動を行っていることを初めて知りました。大変良い活動であり、高校としても活用できる(参考になる)事項がありました。
- ・ 地元校ですね。大学の敷居が広くなる感じでよいのでは…。
- ・ 地元、岐阜大学の行事にも参加させていただいています。大学の新しい活動の形として期待しています。
- ・ 積極的に進めて頂きたい。本校でも協力できればと考えています。
- ・ どんどん地域、社会へ出て行って、学んでほしいし、貢献してほしいです。良いと思います。
- ・ 現場の問題をすくい上げておられてありがたいです。
- ・ コラボレーション、いろいろな立場からの合流、協力という視点は、非常に有意義であり、大切である。学ぶことも多く、今後もぜひ進めてほしい。

6. 本イベントに対するコメント(抜粋)

①自身にとっての成果

■ポスター発表について(発表者)

- ・ 2年間の研究成果の発表。
- ・ 発表する時の言葉の選び方を考えられた。
- ・ 様々な人の意見、アドバイスが聞けたこと。
- ・ 自分たちの探究を知ってもらうこと。
- ・ 外部に発信すること。
- ・ 客観的な意見をいただく。
- ・ 質問をたくさん受けられた。
- ・ 発表の練習になりました。
- ・ たくさんの方々から、課題研究へのアドバイスをいただけて良かったです。
- ・ いろんな発表をきいて、勉強することが多かった。
- ・ 他校の注目点の違いを知り、今後につなげられると思った。
- ・ 課題を見つけることが出来たこと。説明不足なところが分かったこと。
- ・ 新たに課題がみつかった。
- ・ 発表の上手な人を見ることで説明の仕方や姿勢を学べた。
- ・ 9月ごろに予定されている次のポスターセッションに向けてポスターや発表の改善点を多く見つけられた。
- ・ 研究内容について新たな視点・アイデアをいただき、今後の研究に大変役に立つ学びがあったことです。
- ・ 地元について考え直せたこと。
- ・ 他地域の人と意見交換できたこと。

- ・ プレゼンを本格的に行ったことが初めてなので、ポスターセッション自体が成果で、相手にきいていただける発表を考えるきっかけとなった。
- ・ 楽しめた！
- ・ 必ずしも専門とは限らない人たちと話せたこと。これからもこのような企画をお願いします。
- ・ 発表をし、発表の技術を上げ、研究についての意見やアドバイスをいただく。
- ・ また、発表をきいて、発表の技術や研究について様々なことを得る。
- ・ 発表能力を身につけたこと。
- ・ 今後、探究の完成に向けて、自分のもっていない視点。
- ・ 大学院生や他校の方々の発表を聞いたこと。
- ・ ぶぶんぐんゲームを高校に所属する人に知ってもらえた。
- ・ ポスター前で高校生や教師の意見が聞けた。
- ・ 多くの研究にふれられ、知識を得られたこと。また、自身の研究意欲の増進につながった。

■ポスター発表について(参加者)

- ・ 他校のポスターの作り方や、出来を見れたこと。
- ・ 自校の生徒が多くの質問を受けることができた。
- ・ 生徒が自分の探究した成果を堂々と、また楽しそうにプレゼンしている姿。
- ・ 京都大学の生徒の発表が面白かった。
- ・ 高校生の探究発表を直に見ることができたこと。
- ・ 高校生の発表のレベルの高さにただただ感服した。この発表のすごさがどこにあるのか、を考えていきたい。その材料が得られた。
- ・ ポスター発表のアンカー作品がたくさん見ることができたと感じます。今回のようなポスター発表の場合、どこを評価すべきか、表現アウトプット力、課題の設定力、指導目標のひとつとするべき水準の高い発表をする生徒や学生を実際に見られたこと。
- ・ 高校生がポスター発表をして大きな刺激を受けたこと。
- ・ 様々な高校の、特に文系の課題研究を見れたことで、イメージがわかりました。文系の先生方に座学でない探究型の授業をイメージして頂けるようなおもしろさが出てきました。
- ・ 高校生がどれほどのことができるのかが、見れたこと。問いの洗練によって成果の質が変わる。
- ・ 高校生で探究で頑張っている事例を見ることができた。
- ・ より良いポスターについて考えることができた。→このことは探究の整理にもなる。
- ・ 課題研究先進校の発表が見られたこと。
- ・ 多くの学校での探究活動の実際を間近で知ることができた。
- ・ 各校の色々な取り組み、様々なポスターを知ることができた。

- ・ ポスターセッションという発表方法は初めてでした。どうなることかと思いましたが、どのブースも白熱したコミュニケーションがおこなわれていました。本校も取り入れてみたいですね。
- ・ 高校生が生き生きとポスター発表している姿を見て、探究活動の良さを実感できた。
- ・ ポスターセッションのやり方、課題探究の実践報告が具体的で大変参考になりました。
- ・ 全国の高校生の探究活動の水準を知ることができた点。
- ・ 社会科学的な発表を多くみることができた。文科省の方針を検証する発表をきけてよかった。

■探究活動の評価、ルーブリックについて

- ・ 教育現場での探究結果を知れたこと。評価の観点について知れたこと。
- ・ 授業で協同学習(アクティブラーニング)を取り入れているのですが、多くの課題がありました。ですが、ルーブリックを考えるということを通して課題の解決策が見出せるかもしれないと思えたことが成果だと思います。手法として活用させていただきます。
- ・ 課題研究の評価について、ヒントを得ることができた。
- ・ 「探究」「ルーブリック」における課題を学べたこと。
- ・ ルーブリックを作成する上でのポイントを得られた点が大きいです。
- ・ いきなりSSHの学校に管理職として転勤してきたので、探究活動の評価法は、私にとって未知の世界だったのです。少しわかった気がします。
- ・ 評価のかかえる様々な課題を知ることができたこと。
- ・ ルーブリックをはじめ、探究の評価について知ることができたこと。
- ・ 探究のあり方を考える基本をいただいた。
- ・ 評価法で「ルーブリック」を活用することは聞いていたが、具体的にルーブリックの作り方が学べて良かったです。
- ・ 探究活動の評価の重要性を再認識できたこと。
- ・ 評価に対する自分の考えをまとめることができました。
- ・ ルーブリックとは各校独自で流動的なものであってよいとわかったこと。
- ・ ルーブリックの手法についていろいろと学べたこと。
- ・ この4月から主事を拝命し、キャリア教育、総学、ALについて中央の連絡協議会や視察で勉強させていただくなか、恥ずかしながらよくわかっていなかったルーブリックについて概要を知ることができた。今後の教員研修に生かしたい。
- ・ 現在、ルーブリック評価について検討(試験的に実践)しています。大変参考になり、これからの方向性が少なからず見えてきました。
- ・ ルーブリックの考え方の基礎を得た。
- ・ 探究型学習に対する評価、ルーブリックの例について情報収集できた。
- ・ 探究活動の評価に関する最先端の知見が得られたこと。

と。

- ・ ルーブリックに対する新しい知見が得られました。
- ・ ルーブリックの現在の位置づけに関して。
- ・ 文理、研究と多角的な視点から探究活動の評価について知ることができたこと。
- ・ 文系的な探究活動について、評価する観点について示唆を得られた。
- ・ 文系の課題研究評価はむずかしいということがわかった。

■目標設定・課題設定

- ・ ルーブリックを評価として用いるだけでなく、課題解決の力は何か？どのような姿を目標とするのか見極める視点として考えることに意味があると理解したこと。
- ・ これからルーブリックを作成する必要がある、考え方や様々な視点での議論を拝聴したことで、本校のルーブリックの目的が明確になった。
- ・ 学校において一番大切にしたいことは何か、どんな力を育てたいのかをまず共有した上で、探究学習をすすめていく必要があると改めて認識できました。
- ・ 具体的な成長の姿のイメージが描けました。
- ・ 大学で伸びるような教育を高校でやらないといけなことを実感した(私が大学合格がゴールみたいな高校時代を過ごしてしまったため)。
- ・ テーマ設定→身近な問題(自分ごとにする)をグローバル課題へ。
- ・ 複数年わたっても長い目で探究活動に取り組む。
- ・ 「ルーブリック評価を作ることは、本校の課題研究でつきたい力をどう設定していくのかを考えることである」ということを再認識。
- ・ 課題研究は答えのない課題に対する取り組みであるが、何について取り組むのかというテーマを決めるところが難しいとわかったこと。
- ・ 県で探究的な学びのあり方について、研究をしていくに際し、イメージをもつことができた点。
- ・ 高校生の探究活動のゴールのイメージを持つことができた。

■課題研究の進め方・方向性

- ・ 課題研究の進め方について、何をどのように、どの段階で、といった具体的な方法を知ることができました。
- ・ 今、進めている方向性を再確認できました。道のりは長いですが…。

■先進校の探究活動の事例

- ・ 本校では、SSH校に指定されるために取り組んでいる。さまざまな取り組みが知れてよかった。
- ・ 探究活動の評価方法や考え方について先進校や研究者からの意見が聞けたこと。
- ・ 他校がどのようなルーブリックを作成し、何を問題とされているのかが見えた点。
- ・ ルーブリックに関し、様々な考えがあることがわかった。すばらしい先進事例を知ることができた。
- ・ 先進校の取り組み等、大変参考になりました。

- ・ 各学校の探究の取り組み、ルーブリックの状況がわかってよかったです。
- ・ 他校の先生方や生徒の研究を教えていただいて大きな刺激を受けました。
- ・ 勤めている高校で探究型授業や課題研究を行っているので、他校の取り組みや発表方法・レベルをよく知ることができた。課題研究の評価方法を知ることができた。
- ・ 自分が SGH の教員だが、他校の取り組みをみることができた。
- ・ 探究活動を行っている高校がこれだけ進んでいるということ(実践・指導・評価の点で)。
- ・ 文系の探究テーマ、進め方について実践例を見ることができた。

■自校の活動の振り返り

- ・ 自校以外の文化(?)に触れられたこと。それによって自校のことを少し客観的に見ることができたこと。
- ・ A 高校の行っている探究的学習の方向性が間違っていないことが確認できた。
- ・ 本校への生かし方を考えることができた。
- ・ 職場での課題学習の枠組みを問い直すことができました。
- ・ 所属校の能動的な学習の評価に光が見えたこと。

■その他

- ・ 日頃は理系の探究指導とその評価を考えていて、探究と探究成果物を分ける必要があるのではないかとこの事を考えていたので、フロアの先生からの意見ができた時にとっても共感しました。
- ・ 探究の指導法の共有がかえって生徒の独創性を阻害する可能性に気づけた。
- ・ 探究活動をどう進めるか(どうはじめるか)に自分は悩んでいます、どう評価するかが今回のテーマで随分おくれたところで自分(たち)は困っているのだなど改めて感じました。SSH や SGH で先行している学校とそうでない学校では、随分教育内容が違っています…。これも格差なのでしょうか？ちょっとさびしい気もしました。
- ・ 中学生でも支援のしかたによって、十分成果が上がるという確信が得られた。あと2年あれば、今担当している1年生に課題を見つけたら、探究していく方法を伝えることはできると思います。
- ・ 大学が高校の探究の評価に熱心に取り組んでいることを知りました。
- ・ 服部先生と話せたこと。
- ・ アクティブラーニングの有用性
- ・ 探究活動に取り組む学校の組織化に関するヒントを多数得られた。
- ・ 課題研究の評価は難しいが、多くの学校ですでに苦しみながら取り組んでいる。まさに教員側のSSH(?)である、ということが分かりました。

②自身にとっての今後の課題**■ポスター発表について(発表者)**

- ・ 発表経験を活かしたさらなる研究。
- ・ 喋りすぎるので引き際をしっかりとる。
- ・ プレゼンテーションの方法。
- ・ 聞き手に分かりやすく伝えること。
- ・ 今後も調査をつづける
- ・ データを正確にしたい。
- ・ もっと自身の課題研究を多角的なアプローチで進めなければいけないと思いました。
- ・ ポスターについて、もっと意味深く研究する。
- ・ 自分たちの考えたことをしっかりと定義できるようにする。
- ・ せまい範囲と捉われず、大きな範囲を調べて証明していきたい。
- ・ 聴いていただいた方々からの助言や質問に答えられるようにしたい。
- ・ 実験を行う。
- ・ 実験回数、問題点の解決。
- ・ ポスターの改善
- ・ 目的の明確化と共に、実施による研究の進めも重要だとわかったので、そこに重点をおいていくことです。
- ・ よりよい改善策を見つけること。
- ・ もっと研究を深めて、自分の考えを確立したい。
- ・ 疑問に思うようになること。
- ・ 発表方法の改善
- ・ もっと高校生や大学生、教授などの方々に研究内容の意見をいただきたい。大学生の研究内容、活動を知りたい。
- ・ 今日指摘されて気づいた観点から研究すること。
- ・ 研究に対する理解度を深める。
- ・ もっと積極的に発言する。
- ・ ぶぶんぐんゲームについての課題としては、実施の場を広げること。

■探究活動の指導と評価について検討・改善

- ・ 今日出てきた質問や疑問に対し、生徒の発表を改善していく。
- ・ 生徒の探究活動をどう評価して、どこまで指導すればよいのかを十分考慮しながら、指導にあたりたい。
- ・ 数学的探究の評価について。
- ・ 育てたい力や評価の観点を明確にして、アクティブラーニングをよりよくしていくこと。
- ・ 育てたい生徒像と評価の関連性の再構築。
- ・ 学生が trouble→discovery→problem search→solving (証明はいずれ発表できるよう努力したい)の順で自由に問題解決できるように指導方法・評価方法を考えたい。
- ・ 探究型の力を授業でどのように伸ばせるか。また授業をどのように改訂していくか。
- ・ 本校の探究活動のカリキュラムに評価項目を積極的に導入したい。

- ・ 課題設定、その苦勞に耐えられる生徒の育成。
- ・ 人社系でも科目や内容によって違うのだが、どうすればよいか。
- ・ 進路学習やライフプラン作成や修学旅行や課題探究などで(そして日々の授業でも)、探究活動をどのように仕掛け、どう評価するのか、自分自身や仲間内で探究していきたい。
- ・ 「まとめる」から「調べる」に重点シフト、テーマ設定をどのようにしていくか、本校の探究授業のあり方そのもの→本日は良い意味でショックを受け、このままではいけないと思いました。
- ・ 総合的な学習の時間を真に探究的なものにするために必要な単元構想や学習活動の案を提供すること。
- ・ 総合的な学習の内容とその評価について抜本的に改革。
- ・ 探究の評価については、まだまだ自分として入っていない。もっと学ぶ必要がある。
- ・ 本校の課題研究の評価を見直していきたいと思います。
- ・ 関心・意欲・態度の評価をどうすべきか。良い手法があれば参考になります。
- ・ 研究対象が違ったときに、共通の評価基準にするべき点と違った評価基準にするべき点は何か。
- ・ 積極的に探究に向かう生徒の育成。
- ・ 今年スタートした 1 年生の課題研究の活動をよりよいものになるよう改善していく。
- ・ 附属中コース 6 年間の探究学習シラバスの開発
- ・ 探究型授業や課題研究の評価方法。
- ・ どうやって生徒に質疑応答の力をつけさせるか。
- ・ 教科における探究学習の可能性。
- ・ 「新しい学力」が求められている中で、探究活動について考えていくこと。何を学校で重点的に教えるのか、考えていくこと。
- ・ まず、数学での課題研究を取り組んでみたい。
- ・ 探求活動のルーチン化とアクティブラーニングの活用
- ・ 「部活、趣味の中にあり、課題研究の中にあり、座学の授業の中になくはないもの」と「課題研究の中になくはないもの」を見つけ、その評価のあり方を考えたいです。
- ・ 成果が明らかに見られるポスター発表のプレゼン。
- ・ 探究や課題研究の着地点の指導。
- ・ 賢い生徒であればあるほど、テンプレートに自分の研究内容や発表内容をはめ込み、うまくまとめてしまう。もっと徒手空拳で自分のためになる発表に臨ませる必要もあるのではないかな？
- ・ 本校における「つけたい力」、「育てたい生徒像」を明確にして、総合的な学習の時間の展開に生かしたい。
- ・ グループ評価→個人評価への展開
- ・ 人文科学系の課題研究の評価について。
- ・ 探究の目的の再考

■ルーブリックの作成と研究

- ・ ルーブリック作成、及び、つけさせたい能力・資質を明確にした探究内容、生徒の相互評価。
- ・ ルーブリックの作成とその使い方に関する研究。
- ・ 実際にルーブリックを作成していくことが課題であり、まだまだ未知数です。
- ・ 具体的に学校をあげてのルーブリックづくり。
- ・ ルーブリックの観点の具体化、焦点化をどのようにするか。
- ・ 探究活動を行うためのカリキュラム(指導内容)の検討と、担当者がつけやすい?(理解しやすい?)ルーブリックの作成。
- ・ 人文系と社会系の探究手法などは異なることが多いはず。どのようにルーブリックをつくるか。
- ・ アクティブラーニング→課題研究の取り組みを教科に広げるルーブリック評価
- ・ 現場もさることながら、教育委員会主催の研修などの観点や内容をどうしていくかを考えさせられた。学校の教育目標の達成度をはかるルーブリックを作らせてみたい。
- ・ 「文学を読む」ためのルーブリック作成。
- ・ ルーブリックが各学校による違いがあることが各学校の特色となっているのか。
- ・ 本校におけるルーブリックの作成、改善。
- ・ ルーブリックづくり、検討を通して、学校のめざすべき方向を再確認していきたいと思いました。
- ・ 人文・社会科学における探究的学習の評価方法。ルーブリックを作成したものの、これが有効かどうか。
- ・ 探究に対する評価を実践するルーブリックは、各課題によって、具体的に検討するべきではないか(スタンダードが参考になる)。
- ・ ルーブリックをより変更していくこと(具体的に、詳しくしていくこと)によるマイナスの部分があるのではないかと。常識的な一般的な研究に関しては、高い評価が得られると思いますが、より独創的な革新的な研究をつぶしてしまう可能性もあると思いました。2)現実として、教科の1つとして評価しなければならないので、ルーブリックは必要だと思いますが、よりシンプルに、いろいろな見方ができる形が良いのかなと思いました。3)そもそも課題研究や研究というものは、「他人からの評価」というものは目的ではないはずなので、あまり客観性というものは元々期待できず、「A校ではこう判断した(でもこれが正しい評価かどうかはわからない)」的なスタンスでいくしかないのかなと思いました。
- ・ 本校のSGHでグローバル人材育成のための「課題研究」を評価するルーブリックを作成していきたい。
- ・ 本校独自の評価基準(ルーブリックなど)を確立させたい。
- ・ 育てたい生徒像とルーブリック評価の精緻化。
- ・ ルーブリックと観点別評価の違いがよくわからない。

■教員の意識改革・教員研修

- ・ 知識を生徒に示すだけでは不十分なのだということを教員がいかにか意識できるか。生徒というよりむしろ教員の意識改革の方が課題でしょうか。
- ・ 教員の評価力向上をどう担保するか。
- ・ 校内で探究活動への理解が進んでいない、先生方にどのように広げていくかが課題です。
- ・ ルーブリックを作る時間の確保。目標の明確化。学校全体で取り組むための教員のまきこみ。
- ・ 「鑑識眼」をもつ教員の育成。
- ・ SSHやSGHに関わり、首をつっこんでいく教員を増やすこと。
- ・ 同僚に伝え、足を運んでもらい五感で感じてもらう。
- ・ 生徒の探究力を育てる方法として「逆向き設計」論、パフォーマンス課題、ルーブリックなどの作り方、使い方、および評価の方法を多くの先生にわかってもらうための方法が課題です。さらに自分自身の経験の蓄積。
- ・ まず、教員同士が話すことが大切。職員室の中をどうするか?学校運営をどうするか?それを教員全員がどうにかしようと努力しなければ、質の良い探究活動はさせられない。子どもより大人が難しい。
- ・ 探究型教育にどこまで先生方の協力、理解が得られるか?

■自校の評価体制

- ・ 探究のゴールをどこにするのか共通認識を学校内で作ること。
- ・ 教科の枠を超えた教員集団のあり方、スキルアップの手法、組織化。
- ・ 本校のシステムの洗練。
- ・ 評価疲れをおこさせない、持続可能な指導体制の構築。
- ・ ルーブリックの教師間での共有化。
- ・ 探究学習の校内システム作り(カリキュラム、指導体制等)。
- ・ 組織として評価をどう作っていくか。
- ・ ルーブリックの進化(校内での共有化)
- ・ 探究の評価、ルーブリックの作成、教科との連携を考えていく必要がある。
- ・ 学校としての探究評価の方法の形式化、教員間の共通理解。
- ・ 評価方法も大切だが、まずは全校生に全職員がどのようにして課題研究をすすめるのか、ということです。
- ・ 評価基準の決定と、それが教員間で共有すること。
- ・ 自分の勤務校における探究活動の評価方法の確立。

■その他

- ・ 探究をすれば学力もあがるというイメージがありますが、探究活動の評価を手法や認識の深まりにおく場合は、学力の上昇(学習意欲や正しい知識の習得)には、実は結びつかないという事を感じています。よって、探究の評価に学術的成果を求めないで、探究を進めて

いく事にどれだけの意味があるのか、また、これから社会や科学界で出会う未知の答えのない問題を解決していける生徒は育つのか、その関係について学びたいです。

- ・ 課題研究について、ルーブリックのみで評価するのではなく、成果物をどのように捉えていくかという新たな疑問ができました。
- ・ 勤務校でも探究学習を取り入れてみたいと考えています。具体的にどのような課題があるのか知りたくて参加させていただきました。
- ・ 高松第一高校の佐藤先生が発表の途中で、「今のルーブリックは理科の評価であり、数学のルーブリックはできていない」と言われたが、分ける必要があるのか？
- ・ 中学→高校→大学につながる知識と発表していく力、コミュニケーション力、うまく表現できないが、中学でもできることはどんどんやってみて、高校ではこれを学ぶ！大学ではこれを学ぶ！という気持ちで生徒たちに進路決定をさせてやりたい。
- ・ 外部にとって妥当性のある評価について
- ・ 生徒たちの研究にどれくらい高校教員や大学教授・院生などの指導が入っているのか。
- ・ 継続的な運営体制の確立、横のつながり(他分野同研究)。

③本イベントの良かった点

■多彩なテーマのポスター発表

- ・ さまざまなジャンルから来ていて、聞いていてとてもおもしろかった。
- ・ 様々なテーマや分野の研究があったこと。
- ・ 文理入りまじっているのがおもしろい。
- ・ 文系・理系問わずさまざまなジャンルに触れることができたこと。
- ・ 分野を問わず色々な方から指摘や質問を受けることができたことです。
- ・ いろいろな分野の発表があること。数学の発表が多かったのが良かった。
- ・ 文系・理系が合同で発表会ができた点は良かったと思います。
- ・ 文系と理系が同じ会場で発表し、互いに聞くことができた。

■高校生と大学生が共に発表

- ・ 先進的に探究活動に取り組んでいる学校の生徒が、実際にポスターセッションの発表を見ることができた。高校生だけでなく、大学生も参加したのは良かったです。
- ・ 高校生と大学生・院生が同じ場で発表する点。高校生にとって非常に良い刺激になると思います。
- ・ 高校生がとても多く参加していてよかった。
- ・ 生徒が学校外の公の場で発表できることは、生徒の成長に大きく寄与し、自信を持たせることができる。

- ・ ポスター発表で実際の生徒の活動をみることでできた点。

■多様な立場から自由闊達な議論

- ・ プレゼンの中で、どんどん質問したり、意見を出しあったりすることで、とても楽しいポスターセッションとなった。
- ・ 全体的に楽しかったこと。
- ・ このイベントすべてが楽しかったです。
- ・ 雰囲気が頑張ろう！という感じで少し安心できた。
- ・ フロアと発表者の相互的な話し合い。
- ・ 質問しやすい環境を用意してくださったこと(発表の途中でも質問してよいなど、あらかじめルールを説明してくださった)。
- ・ 午前・午後の間に十分な時間が取っており、始終和やかな雰囲気の中で進行されていた点。
- ・ 高校生、教員(高校)、大学教員それぞれの立場の発言が聞けること。
- ・ 発表者と気楽に話ができる。高校生、大学生、高校教員、大学研究者と一緒に議論できる。
- ・ なごやかな雰囲気
- ・ 素晴らしい意見が様々に聞けて、良かったと思います。
- ・ フロアディスカッションがとても長く、非常に議論が深まった。
- ・ 発表者と聞き手の距離が近く、深く学ぶことができた。

■プログラム構成

- ・ 発表時間を2分割され、より多くの発表を聞く機会が持てたこと。
- ・ 時間が区切られていて、他者の発表をきくことができた。
- ・ 個人が自由に様々なブースを渡すことができる点。
- ・ 自由にまわって質問できる。
- ・ 前後半に分けて発表すること。
- ・ ポスター発表という実践例、ルーブリックの活用、理論のあり方など、バランスが良かった。
- ・ 生徒の発表、教員の発表、大学の発表、それぞれがあって良かった。
- ・ 発表→パネルディスカッション→討論という進め方
- ・ 午前:生徒の発表+午後:教員研修の組み合わせ
- ・ 午前・午後セットでよかったです。
- ・ 第一部と第二部に分けて実施したこと。現場で困っていることや発表校への質問を出しあって、議論する時間をしっかりとれているところ。
- ・ 会場設定が文理で分かれており、分かりやすかった。様々な立場のコメントが頂けた。
- ・ 午前のポスターセッションのおかげで、午後の議論を聴く際、具体的イメージを補完しながら理解を深められた。
- ・ シンポジウム、全体会という進め方が良かったと思う。
- ・ 探究活動の実際の姿を見たいうえで多様な見解を聞くことができた点。

- ・ 毎回いろいろな進め方をさせていただき、ありがとうございます。参加型のイベント、楽しいです。
- ・ 高校での実践例を具体的に聞くことができ、参加者の意見を取り入れて協議する進め方。
- ・ 午前に探究活動の成果の発表が見られたこと。
- ・ 高校生の実践と大学レベルの研究の双方の視点から探究を考えようとしている点。

■時間管理

- ・ 時間管理がすばらしく、テキパキしていました。
- ・ 時間ピッタリに始めること。
- ・ 高校での議論とちがいで、すっきりした進め方で、ムダがなかったと思います。よく自分の学校での実践をドラダラ述べて質問する人がいて困ります。司会がよかったと思います。
- ・ 進め方をアナウンスしていること。こういった研究会が関西で行われていることをうらやましく思った。東京近辺は評価についてあまり研究がなされていないと感じました。今後も何回か意見交換会をつくっていただければと思います。
- ・ 様々な意見を聞かせていただけて良かった。フロアからの時間も十分に取っていただけたこと。
- ・ 時間通り、意見交換などが効率的。
- ・ 多くの参加があったこと。休憩時間を長くとっていただいたこと。

■セミナーの内容

- ・ 具体的な実践内容がきけてよかったし、具体例があったのでわかりやすかった。
- ・ 「生の声」というのが、大きかったと思う。
- ・ 指導から評価へと至る大きな流れが紹介されたこと。
- ・ 実際に取り組んでいる先生の話を知ることができた。
- ・ 多くの先生方の意見が聞けて大変参考になった。
- ・ 具体的な事例を元に話を進めていただけたこと。
- ・ SSH、SGH校が混じって報告されているところ。
- ・ 現場の高校での生の声、大学院生の活動など、事例が多いのがよい。
- ・ 実践報告が中心で具体的であるため、課題が明確になり、今後の方針、取り組みができやすいように進められていた。
- ・ いろいろな実践がきけて有意義でした。
- ・ 生徒の姿が実際にあって、評価が議論されたことがよかったです。
- ・ 様々な学校の事例を紹介していただいたので参考になりました。
- ・ 現場での課題をタイムリーに提供していただいていること。
- ・ 登壇者のレベルが高い点(重要)。
- ・ 実践を見ることで、イメージができた。

■その他

- ・ 高校生から直接、探究活動(成果、プロセスなど)について聞いた点です。
- ・ 教師にとって他校生の実践を見聞することは視野を

- ・ 拡大させ、教師の成長につながる。
- ・ 文科省の方向性との擦り合わせも担当の方が来られ、直接うかがえたことが良かったです。
- ・ なんのために教育学を研究するのか?ということをし実感できた。
- ・ フロアに臨時で当たったこと。

④本イベントの改善すべき点

■会場(狭さ・イス不足・場所)

- ・ ポスターの展示スペースが狭すぎる。ゆっくり話が聞けない。移動も困難。
- ・ 会場をもう少し大きいところでない、混み合すぎて見にくい。1グループで30分間×2回は確保してほしいです。
- ・ 席を十分に用意してほしい。立ち聞きやアンケートを立ったまま書くことはしんどい。
- ・ いすが少ない。
- ・ 午前中、座る場所がなかったこと。
- ・ ポスターセッションは本当におもしろかった。けど、狭くて生徒さんのお話がちゃんと聞けなくて残念。だいたい1テーマ3分ぐらいで作って…とかしておいていただくと沢山きけたと思います。
- ・ ポスターの位置が近くて、声がかさなり、話が聞こえなかった。
- ・ 会場での参加者の動線の改善が必要だと思います。椅子がないのも辛いです。
- ・ ポスター発表をたくさん聞けるのは良かったが、ポスター間隔が狭いので、聞きたいのに人がいっぱいいて聞こえない見えないケースがよくあった(聞きたいポスター発表は特に)。
- ・ この教室にたどり着くまでの道案内がもっとほしい!!
- ・ 場所がわかりにくかったです。
- ・ 発表場所が角だったので、もっとひろい所がよかった。

■ポスター発表の時間不足

- ・ 時間的な問題ですが、30分1回の発表時間では、見ることのできる発表数が非常に限られてしまったことが残念です。
- ・ 半数の説明しか聞けない点
- ・ 発表時間がもう少し欲しい。
- ・ 2交代でなく、3交代にしてもよいのではないかな。
- ・ もう少しだけポスターセッションをしたかったです。
- ・ 発表者同士の交流が時間的に難しかったことです。
- ・ 時間がやや短いように感じた。もっと色々な研究にふれる時間が欲しかった。
- ・ ポスターの講演時間が短かすぎる。すべてのポスターはまわれない。
- ・ 午前中のポスターセッションの時間が短くて残念。1つずつの発表が長かったのではないかな。
- ・ ポスター発表の時間がもう少しあったら良いと思いま

す。もっと多くの生徒の発表を聞きたかった。

- 発表を聞く時間が1時間しかなかったこと。4分割して(30分×4)で行えたら、もう少し聞けたと思う。
- ポスターセッションの数を絞って、ひとつひとつ発表内容をもう少ししっかり聞いたり、やりとりを試みたい。

■プログラム構成

- 開会式、閉会式をもう少し短くすること。
- 話を聞く時間が長すぎる。
- あいさつが長い為に、発表時間が短いこと。
- パネルを堀川から借りて、真ん中も使えばよい。思いきって講評はやめて、ポスター発表の時間を増やす。30分講評を立てて聞く生徒が何を思ったでしょうか。
- 午前との関連性の薄さ。例えば、午前のある発表について、皆で議論しながら評価してみても面白いかと。
- 発表の時間と講評の時間のメリハリを司会なども協力しつつ、ハッキリさせるべき。
- せっかく高校生と大学(院)生が、同一会場にいるので、交流の場面があればもっとよかったのではと思う。ポスター発表のスペースをもう少し広くできれば。
- 全体的な探究に関する一般論と細かな事例を分けて発表があると助かります。
- 少し盛りだくさんかもしれませんが。発表は2組くらいがいいかも…。

■セミナーの内容

- 具体的な1つの授業(1時間の授業)のイメージが持てるような情報があるといいなと思いました。そもそも「探究」の授業を行うにあたり、旧来の授業形態をどうのりこえたのか?どうやって教員の意志共有をはかったのかも知りたかったです。
- 今回は成果発表を聞くだけにとどまったが、研究の経過やこれからの活動方針などが聞けたらよかったです。
- 探究とは何か、どのようなものか、といった内容について生徒も交えて交流がしてみたいと考えました。
- 評価のことに議論が集中するのは方法研ならではのなあと思いました。が、評価に集中しすぎ?
- ルーブリックとは何か?といったような基礎的な知識をまとめておいていただくと助かる。
- 大学生の発表についていけなかった。もう少しポイントを絞ったスライドで。

■全体討論の進め方

- 後半の討論で黒板だと少し見にくかったです。スクリーンに映ったら見やすかったです。
- 全体討論の議題をしばってもらえると、より討論になると思う。質問会のようになると少しさみしい。
- 「討論」の西岡先生の板書をリアルタイムでプロジェクターで映しつつ、進行してほしかった。実況中継のように。
- 最後は自由討論にした方が多くの意見が出たのではないだろうか。質問意見を先に聞いたのは逆にわかりにくかった。

- 午後、「青いチョーク」は見にくい。黒板には、白と黄がはえます。
- 質問に対する答えをしっかりと答える。
- 質疑はもう少し区切って、問→答→問→答というラリーが増えてもよかった。
- 意見交流はやはり小さな単位で行うべきではないか。
- ポイントをもう少し絞って議論した方がいいと思いました。
- 質問がたくさん出てきたが、出ただけで答えがなかったものがあつたのが残念。
- 第2部について、出された質問への答えがすべて行われていない。質問→次の質問→次の質問と展開してしまつて、結局出された質問への答えが分からないままになってしまつていた。

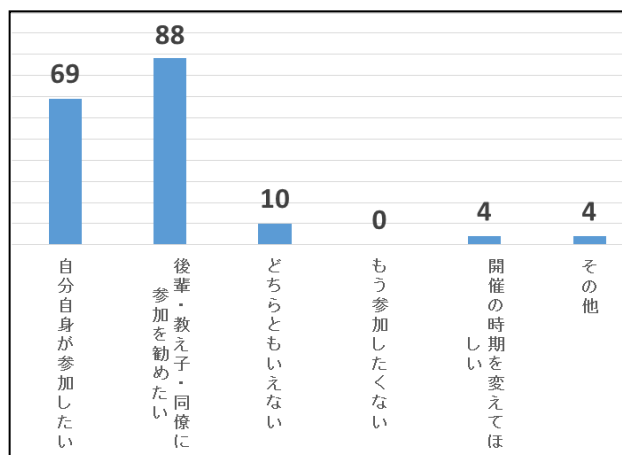
■時間配分

- 午後からの始まりをもう少し早くしていただき、終わりをもう少し早くしてくれると良いかと思ひます。
- ポスターセッションの時間はもう少し長くてもよいのでは。午後の始まりはもう少し早い方がありがたい。
- 昼食はもう少し短くてよい。
- 全体討論の時間がもう少しあると良い。
- 少し昼休憩が長いように思ひましたが、特に問題ないと思ひます。

■その他

- マイクの調子
- 発表数が思ったより少なかったです。
- 前半(午前)と後半(午後)はセットになっているようなので、両方出られるようだとありがたかったです。
- 京大をねらえるような進学校が中心となっている。探究型の学びをしっかりと高校でやる(ラストチャンスかもしれない)のは、進学校以外のほうが、重要なのではないか。生涯学習の基礎。

7. 来年度も「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」が行われた場合、該当するもの。



8. E. FORUM へのご意見・ご要望(抜粋)**■ポスター発表会・交流会・セミナー等の継続的開催**

- ・ 今回の取り組みを恒例化させてください。
- ・ 高校についての研究会は少ないので、もっとやってほしい。
- ・ 継続して、SSH、SGHの枠にとらわれず、探究活動の報告・交流をしてほしい。
- ・ 来年もこのような会を開いて、さらに議論を深めていけたら良いと思います。今日はたいへん勉強になりました。
- ・ ポスター発表については難しいですが、簡単な形でも、年に行う「探究」に関するフォーラムの回が多くても良いと思いました。ありがとうございます。
- ・ この形式の会を毎年行ってほしい。
- ・ SGH校が多く参加できるような機会がいただけるとありがたいと考えています。

■扱って欲しいテーマ

- ・ 探究活動における教師の指導のポイント。
- ・ 高校の授業でのアクティブラーニングの取り組み状況、方向性。
- ・ 学習理論・脳科学、人工知能、物理学、数理論理学・基礎論、教育学、人材育成、言語学、哲学、心理学。
- ・ 今回は評価が主であったが、生徒の探究活動の過程の分析・考察方法や1年間の活動(講義なども含めて)全体を分節化して紹介してほしい。
- ・ ①SGHの取り組みは、さっぱり聞こえてこないもので、これらの学校を集めた発表があれば良いと思う。②融合科目についての議論をお願いしたい。③国際交流に熱心な先生を集めた会(本当に伸びている力は何なのか)
- ・ 地方、遠隔地の高校と大学の連携、接続の理想的な形について
- ・ 持続可能な指導体制(探究活動を支える学校全体の取り組み)の事例発表。
- ・ 当為としての在り方の議論ではなく、評価疲れや過度の負担にならないような成功している事例の紹介。例として実際に使えるルーブリックの例。
- ・ 探究と成果を分けるということですが、成果を上げるための統計的知識(方法)等が知りたいと思う。
- ・ 文系のテーマ設定、課題研究の進め方、年間研究計画について集まる機会があれば、文理の融合ができると思いました。特に「統計」の扱いを重視するならば、計画時点で、指導側に心づもりがないとあとあと苦しくなります。文理両者の得意を生かせるコラボのあり方が見つかると、職場も楽しくなるのかなと思いました。
- ・ ルーブリックだけでなく、西岡先生が最後に言われた探究の評価について学びたいです。
- ・ アクティブラーニング、協同的学習と評価
- ・ 海外研修 or 海外への修学旅行、ビジネスコンテスト、模擬国連といった取り組み(国内外のコンクールやコ

ンテストならなんでも)

- ・ 具体的な生徒の研究を例に挙げて、みなさんで何種類かのルーブリックで評価するようなことはできないでしょうか。ルーブリックの作り方。
- ・ アクティブ・ラーニングの実践活動を紹介していただきたい(探究活動だけでなく、教科指導でも)
- ・ 個人的に大きな課題だと考えているのは、「鑑識眼」や「<本質的な問い>を見わける感覚」をもつ、または獲得する意欲・素養のある教員の育成です。そのためには、ひとりでも多くの先生が質の高い研修を受ける機会が必要なので、いずれ E.FORUM 分科会などが生まれたら嬉しいです。
- ・ 課題発見・テーマ設定をどのように各校でされているのか。
- ・ 研究者の視点と高校教員の視点の違いについて。
- ・ 一つの課題研究の進展を徹底的に研究共有してみたいと思いました。堀川高校さんの古い例のように、生徒の探究ノートや評価シートなど一式をじっくり見て、議論できるような機会があれば、ありがたいです。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 各校のルーブリックを持ち寄り、学び合う機会があればよいと感じた。また、そのルーブリックの目的、誰がどのように、グループなのか、個人なのかなど、本日出た疑問点など、各校の現状、取り組みを知りたい(情報共有)。
- ・ 探究に向かわない生徒、向かえない生徒への指導のアプローチ。まず探究とは何か、どうして必要なのかについて教員全体であたっていくための指標。
- ・ 今日は、評価の方法が問題となったが、まずは、探究活動を生徒全員で取り組むための活動事例、教員のかかわりについての具体的事例をあげるような研修会がほしい。校内全体に広げようとした時に、多くの教員から「多忙感が更に増すこと」、「指導ができない」、「体制が整っていない」という反対意見が数多くでます。
- ・ 35～39のようなのをもう少しゆっくりお願いしたい！気づくのが遅れてまわっていきなかつたので、ポスターを見て終わったから。でも評価のあり方は、ほんとそこがききたい。
- ・ 教員の働き方。もっと授業やクラスのことをしたい。自分の勉強をしたい。どう学校運営をしていくべきか？とにかく毎日毎日手一杯で気を遣うことが多くて、探究のことどころか授業ですら準備できません。

■セミナーの感想

- ・ 残念であり、ある意味で、なるほどと理解できたが…高校生のポスター発表について質問をしている大学の先生方の姿勢では、探究を深めていく学生がなかなか育っていかないのではないかと感じた。
- ・ ポスター発表は主に人文・社会系を聞かせていただいた。成果として気になるものがあつたのも事実(あまりに単純化しているものとか)。手法として意味がある

というのはわかるが、成果物はどこまでのレベルを求めるのか難しいと思った。

- ・ 「問い」についてもっと議論するべき。何でも良いから興味のあることからスタート→手法を学ぶというのは、残念な探究なのではないか。学ぶ意味(意味とは何か?)のある問いを立てるには、どうすれば良いか? 探究活動の中で、知識・理解が深まることも大切。
- ・ 具体的なパフォーマンス評価のための目標設定の過程を事例的に知れた。

■要望・その他

- ・ 課題研究に取り組む学校は、すべて評価の問題を抱えていると思います。各学校の特徴を取り込める基本的なルーブリック評価表が提示される、自由に使用できるものがあるとありがたいです。
- ・ 全部のポスターをPCで見られるとうれしい!! 絶対総合学習で活用したい。総合がこうなっていくのか…と納得しました。それならば、逆に総合をもう少し切り口を変えていっても良いのかなと思いました。
- ・ ポスター発表の番号とテーマだけでよいので事前にメール等で知らせていただくと効率よく聞くことができたいと思います(私の見落としであればすみません)。
- ・ 賞(ポスター発表)が設定できないか。
- ・ 今日のお話をとおして「ルーブリック」は教員(評価者)が生徒(対象)を見る目そのものなのではないかと感じました。とすると、ルーブリックという形あるものをもとに、その「見る目」=「鑑識眼」をきたえたり、他者とのやりとりの中で相対化できたりすることが、その良さではないかと思います。
- ・ とてもエキサイティングな会でした。ありがとうございました。運営、お疲れ様でした。
- ・ 貴重な機会を作っていただき、ありがとうございました。
- ・ 今回、ポスター発表を開催していただき、大変感謝しています。
- ・ 西岡先生はじめ、関係者のみなさんありがとうございました。